

年頭の書

酪農試験場から

蔵 知 毅

昭和34年のお正月を迎え、皆様おめでとうございます。

酪農試験場も皆様方の御援助によりまして年々整備できてまいりました。昨年は育成牛舎の落成に引き続いて事務所、実験室、短期講習宿舍、精液採取場、同注入所、試験牛舎、独身寮、長期講習生教室と各種の施設の増改築に着手いたしまして、場の規模の大半を完成しますのも間近いことと思えます。

昨年の酪農界は終戦後第3回目の危機であったといわれましたが、岡山県の場合は皆様方の御協力によりまして、早くから対策が行われ、全国に先がけて消費拡大に努力した結果、年末にはもう原乳の不足する地区もできたほど早く恢復しましたことはまことに慶ばしいことでもあります。

集約酪農地区は不況にもかかわらず割合順調に伸びているようで、地区によっては、この際に新しく酪農を始めようという人もあるし、能力の高い牛に買い換えようという人もできているし、乳牛の頭数を増やして経済頭数にまでもっていきたいという人もできてきて、とかく問題はあるにしても酪農は少しずつでも伸びているようでもあります。

最近の岡山県の酪農の一つの特徴は、平坦地の酪農があまり伸びないのに反して、西部、北部の山間部が特によく伸びていることでもあります。則ち山地酪農という型で、山へ伸びてきたことは、将来の日本の農業の在り方を物語るもので、政府が計画しております現在の耕地が国土の15%であるのを20%にまで伸ばそうとする、所謂草地農業を含めた国土の利用度向上計画にも合致するもので、洵に慶ばしいものであると考えるのであります。

しかしながら新しい地区に酪農が伸びるにつれて、種々な問題も起ってきているようでもあります。種々なことをやってみたが、どうもうまくいかないの、皆が騒ぐから自分も「酪農でも」やってみるかといった様な、所謂「でもつき酪農」がかなり行われだしたよ

うに身受けられるのであります。酪農のような新しい、しかも農業経営全般と密接な関係のあるような経営形態を持ってこようとするのに、酪農でもといったような安易な考えでやろうと思っても、これはなかなかむつかしいと思うのであります。もっとしっかりした計画のもとに、一度踏み切ったら後へ引かれない決心でやってほしいものであります。最近流行したフラ・フープは全く恐ろしい勢で普及しましたが、姿を消したのも早かったようでもあります。あれは安い玩具であったからあれでも大した被害もなく、さんざん遊びに使ったあとは物乾しに代用したりして結構役に立っているが、酪農はこんな調子にはいかないのよほど注意してやってほしいものであります。

又自給飼料の増産が進むにつれて、飼料給与の面でも研究しなければならない数多くの問題が起ってきております。例えば飼料作物の単味給与による栄養障害の問題であるとか、飼料圃の連作による微量成分の欠乏の問題であるとか、第一胃の醗酵と飼料給与の関係の問題であるとか、荳科植物の給与と栄養の関係であるとか、問題はかなり多いようでもあります。

又新しい地区に乳牛が入って行くため、酪農に対する基礎的技術と知識のない地方も出てくるし、古い地区は新しい知識に欠けているなどのこともあり、酪農の指導面の仕事も相当できてきたようでもあります。

そこで今年一年はこれ等の問題と取組んで、皆様と共に研究し、勉強して行きたいと念願しているのであります。

1月中には短期講習の宿舍も完成する予定であります。これを大いに活用して、酪農の技術的講習会も開いて行きたいと考えております。どうぞ今年こそはお互にもっと真剣に酪農の問題を検討し、酪農による経営の合理化を図り、儲かる酪農になるように努力したいものであります。

(岡山県酪農試験場長)